

建設業【Light】Ver3.2(15)

- ・重要 パソコンを再起動し、【建設業】Light が起動していないことを確認してら、バージョンアップを初めて下さい。

【バージョンアップ内容】 [Ver3.2(13)→Ver3.2(15)]

■顧客基本情報 及び 経審分析シミュレーション

- ・顧客基本情報の許可情報に解体工事業を追加しました。
- ・経審分析シミュレーションに解体工事業（経過措置含む）を追加しました。

■経審分析シミュレーション 『平成30年4月法改正』対応

以下の改正に対応しました。

計算年を『平成30年4月法改正』を選択する事で最新の算出式で計算されます。

①W評点計算におけるボトムの撤廃

- ・現行 →W評点が"0"に満たない場合は"0"とみなす
- ・改正後→W評点がマイナス値の場合、マイナス点として扱う

※以下の最低点マイナス値の評価項目に影響

- ・W1：労働福祉の状況のうち社保等加入状況（最低点 Δ120）
- ・W2：建設業の営業継続の状況のうち民事再生等の有無（最低点 Δ60）
- ・W4：法令遵守の状況（最低点 Δ30）

②防災活動への貢献の状況（W3：防災協定締結の有無）の加点幅拡大

- ・現行 →協定締結 有り 15点加算
- ・改正後→協定締結 有り 20点加算

③建設機械の保有状況W7の加点方法と対象機械の追加

- ・現行 →対象機械 1台につき1点加算 最大15点
- ・改正後→1台目の加点を5点とし、以後7台目までは1台につき1点加算
8台目以降は2台ごとに1点加算（最大15点は変わらず）

■財務諸表作成機能の改善

- ・改正年度追加

決算期追加画面で選択する改正年度に『H27年04月改正様式（細目改正版）』を追加し、決算期追加時の財務諸表様式を最新様式のみで統一しました。

作成される様式は「H27年04月改正様式」と同一ですが、貸借対照表、損益計算書

入力画面の一部細目名称が変わっています。

詳細は <http://www.clicks.ne.jp/apply10support/zaimudetail201612.htm> をご参照ください。

また、決算期選択画面右下に追加された『新旧細目名対比表リンク』からもご確認いただけます。

- [開始貸借を作成] ボタン押下時、『開始貸借対照表を通常様式で作成します。よろしいですか?』とメッセージを表示し、[はい] を選択した場合、決算期を「1」に固定した決算期データを作成して通常様式で貸借対照表を作成する処理を追加しました。
この場合、表紙に決算期間、会社名、決算期の数字を印刷しません。
※ [いいえ] を選択した場合、従来の開始貸借対照表を作成します。

- 事業報告書

入力画面に『一株利益の算出式に「自己株式数」を含める』オプションを追加し、チェックを付けると 『自己株式数』の入力欄を表示する仕様を追加しました。

チェックを付けて印刷すると、「一株利益 = 当期純利益 ÷ (発行済株式数 - 自己株式数)」で算出します。

チェックを外して印刷した場合は従来の「一株利益 = 当期純利益 ÷ 発行済株式数」で算出します。

- 財務諸表作成部（個人）

「損益計算書」にて、「完成工事原価／材料費」の「期末材料費棚卸高」△で表示するよう修正しました。また、材料費を「期首材料棚卸高+当期材料仕入高-期末材料棚卸高」で算出するように修正しました。

「貸借対照表」にて、「流動負債／その他」の「貸倒引当金」を「流動資産／その他」の「貸倒引当金」に計上して表示するように修正しました。また、「流動資産／_____引当金」の未入力チェックを追加しました。